

今は昔



長女の婚家が家電屋さんのお蔭で、我が家には早々とプラズマの大型テレビが入っている。見慣れると今までのテレビでは全く物足りない。しかし、最近はこの最新の映像技術によって鮮明に映し出される画面の醜悪さ、陰惨さに目を覆いたくなるのは私ばかりではないだろう。これが文明社会のなれの果てであろうかと暗澹とした気分になる。

先日、午後のNHK「なつかし映画劇場」で「大いなる幻影」が放映された。何かと雑用がある昼間のこととて、集中して見た訳ではないが、昔見た感動を思い起こした。第一次世界大戦当時は、戦争に毛

だまだ人間味があった。しかし、「こんな愚かな戦争は、これで終わるだろう」という期待は、まさに「大いなる幻影」であった。

物質的な欲望、冷徹な利己心が国家的に発動しての結果がこの現状なのだと思う。昔は非常時には、国家的な賢人や哲学者が出て、警鐘を鳴らして来た。今は情報過多の中、思索の面ではすっかり衰弱してしまつたのか、理性では納得出来ないような不条理が、声高に咎められることもなく、黙認されている。例えば一人のアメリカ人、イスラエル人に十人のアラブ人が死んでいる。それもイラクが望んで始めた戦でもなければ、原因がなくて起きている自爆テロではない筈なのに。強大な国の国益が何よりも優先するのであれば、国連が力を持たないのも当然だろう。

かくいう私は年のせいだ、最近では映画で

もドラマでも、殺人や撃ち合いなどの場面は、一切見たくない。美しい風景や生物の映像、ロマンチックなもの、ハッピーエンドなものなど、後味の良いものを選んで見るようになった。これも一種の衰弱なのだろうか。

さて四月下旬、私は80年前「入来文書」を世界に紹介した世界的な法制史学者、朝河貫一の研究会に参加するために上京することになった。卒業以来、歴史学からすっかり遠ざかっていた私のこと、参加といても、ただ拝聴しているばかりではあるが、久しぶりの上京には幾つもの楽しみがあった。末娘の出産祝い、長男の新居に泊まること、30年前SEとして大学を卒業したばかりで電算室に派遣されて来たN氏が、今や天下のF社の重役になって、開発著しい汐留で昼食を御馳走して下さることなどである。

長男の贖った新築マンションは、西八王子にあった。一棟に三百戸もあるという巨大な建物では、セキュリティの行き届いた広いロビーのある入り口から、自室近くのエレベーターまで十分も歩かねばならなかった。しかし最新の設備には驚かされた。流しにはデイスポーターが組み込まれ、生ゴミは全て粉碎されて流せるし、浴室には液晶テレビまで付いていて、納戸もあるLDKであった。

幅広いバルコニーに出て西を見ると、高尾山系の遙かむこうに大菩薩の山なみがうつすらと見えた。かつて畑と木々の緑に覆われていた山麓は、中腹辺まで高層ビルも交えた家々がびっしり建っている。

翌日訪れた末娘のマンションは多摩川べりの静かな住宅地にあった。初対面の二カ月の孫娘は、自分の産んだ五人の赤ちゃんよりも整った顔だちに思えた。手慣れた私

の扱いをハラハラ顔で見守る婿さん。全てこの小さな

赤ちゃん中心に回っている若夫婦であった。

翌日は、ホテルパックで一泊指定の品川プリンスに荷物を置いて、訪れる暇のなかった次男坊とNHKマルチメディア局のYさん、それと長男と新宿で待ち合わせて、暫く現役バリバリの彼ら三人とのお喋りを楽しんだ。

最終日、帰りのフライトは午後2時40分。昼食を御馳走して下さるといふN氏と、汐留は初めてという彼の奥さんと二時半に新橋駅で待ち合わせていた。九時にホテルを出た私にはある目的があった。

先日訪れた川内市の「まごころ文学館」に山本実彦の重要な功績「現代日本文学全集」が、安い装丁のものが五六冊展示されているだけだったのがっかりした私は、神田の古本屋で探してみようと思っていた

のだ。地下鉄を乗り継いで神田に出ると、昔懐かしい通りの古書店を片端から尋ね歩いた。

驚いたことに、あれほどポピュラーだった円本が何処にも一冊もないのだ。昭和一桁生まれには、どれだけ影響を与えたか計り知れない全集だったのに。時間ぎりぎりまで探したが、どの店主も首を横に振った。

汐留駅前のピカピカの高層ビルの30階の食堂で、何とも洒落たランチを頂きながら、今や国会議事堂も半分を隠している、ビル

の街を見下ろした。東京の活力は凄まじい。寸時も休まず増殖、発展してうごめいている。

眼下に新橋のガードがあった。昭和28年、受験に上京した私が、初めて口にした餃子の店がその下にあったことを思い出した。ほろ苦いその思い出も「今は昔」と思った。